

2022 年卒  
Vol. 10

## 10 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 10 月発行)

正式内定解禁(10月1日)を迎え、内定状況はどのように変化しただろうか。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は88.4%と高水準ながらも、前年同期実績を僅かに下回った。

また、今回は内定後のフォローについての意見や、就職活動費用などに関する調査結果もあわせて紹介したい。  
(2022 年卒・定期調査 最終回)

### 1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は88.4%。前回調査(7月調査、80.1%)から3カ月間の伸びは8.3ポイント
- 前年同期実績(88.6%)を僅かに下回る
- 就職活動終了者は全体の85.7%。文系が理系を上回る

### 2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」54.7%。前年調査(58.7%)より減少

### 3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の「面接試験を受けた」経験をもつ学生は57.4%。平均社数は3.1社
- 中小企業を受けた理由は「会社の雰囲気がよい」38.0%、「やりたい仕事に就ける」37.3%
- 中小企業を受けていない理由は「給与・待遇が良くない」「安定性に欠ける」などが上位

### 4. 内定式・内定後のフォロー

- 内定式があった学生は67.3%。コロナ前(2020年卒、75.1%)に比べ7.8ポイント減少
- 企業に望むフォローの頻度は「1カ月に1回程度」が最多。文理で差は見られず
- 内定期間中の研修や課題には6割近くが賛成の意向。「eラーニング」が人気

### 5. 就職活動の費用

- 平均61,212円。前年(97,535円)より3万6千円あまり減少。コロナ前の半額以下に
- 総額が最も高いのは「中国・四国」(86,696円)、最も低いのは「関東」(54,405円)

### 6. 就職活動で大変だったこと

- 1位「エントリーシート」、2位「自己分析」。多くの項目でコロナ前よりポイントが増加

## 調査概要

- 調査対象 : 2022年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数 : 1,116人(文系男子347人、文系女子330人、理系男子308人、理系女子131人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2021年10月1日~7日  
サンプリング : キャリタス就活2022学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

### 1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は88.4%。前回調査(7月1日時点)の80.1%から8.3ポイント伸びたが、前年実績(88.6%)を僅かに下回った。今期を振り返ると、企業の動き出しが早く、序盤から高い内定率をマーク。6月までは過去2年より高かったが、7月にはコロナ前の20年卒を下回り、正式内定のタイミングでは21年卒をも下回る結果になった。

モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は84.4%(グラフは次ページに掲載)。複数内定を保留しているなどの未決定者(1.3%)を合わせると、活動終了者は85.7%となり、前年同期(85.2%)をやや上回る。7月調査までは、文系に比べ理系のポイントが高く、理系が先行している様子が表れていたが、今回調査では文系が理系を上回った。理系学生の中には、進学へと進路変更を図る学生が比較的多いことが影響しているのだろう(3ページ)。

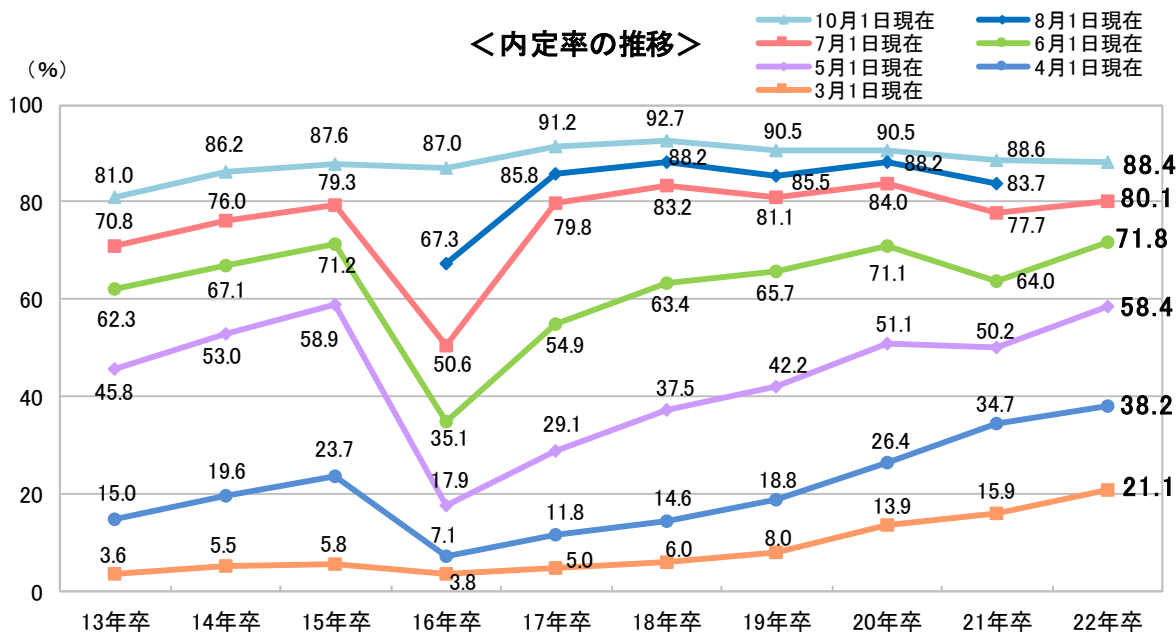
<10月1日現在の内定状況> \*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		88.4 (88.6)	87.0 (87.4)	93.0 (89.7)	86.0 (89.6)	85.5 (86.6)
内定なし		11.6 (11.4)	13.0 (12.6)	7.0 (10.3)	14.0 (10.4)	14.5 (13.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	95.5 (94.0)	93.0 (93.2)	95.8 (93.1)	97.0 (95.5)	98.2 (94.8)
	活動は終了したが複数内定保持	1.0 (1.5)	1.7 (1.7)	1.3 (2.0)	0.4 (1.0)	0.0 (0.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.7)	0.3 (0.3)	0.3 (0.7)	0.8 (1.4)	0.9 (0.0)
	就職活動継続	2.9 (3.8)	5.0 (4.8)	2.6 (4.3)	1.9 (2.1)	0.9 (4.3)

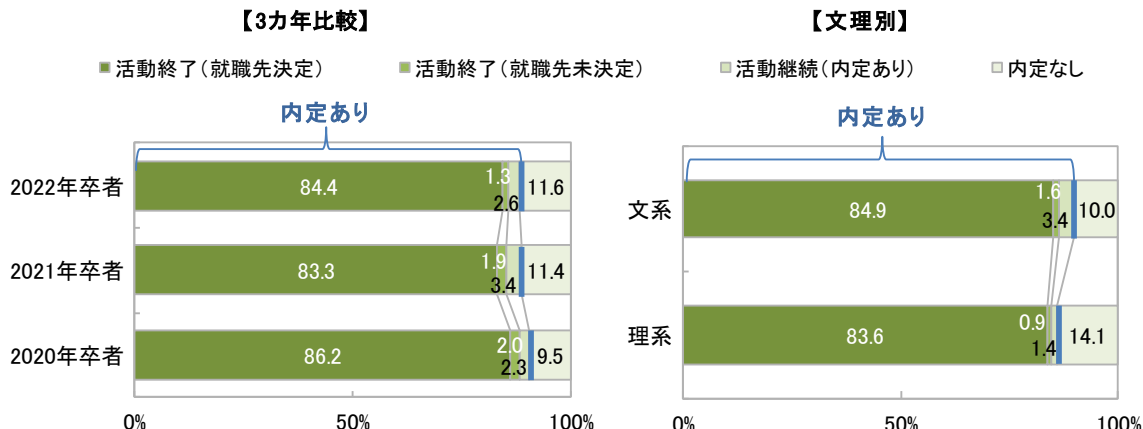
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.1)	2.5 (2.2)	2.5 (2.1)	2.1 (2.1)	1.9 (2.0)

※ ( ) 内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~22卒は6月 ※15年卒以前は8月のデータはなし

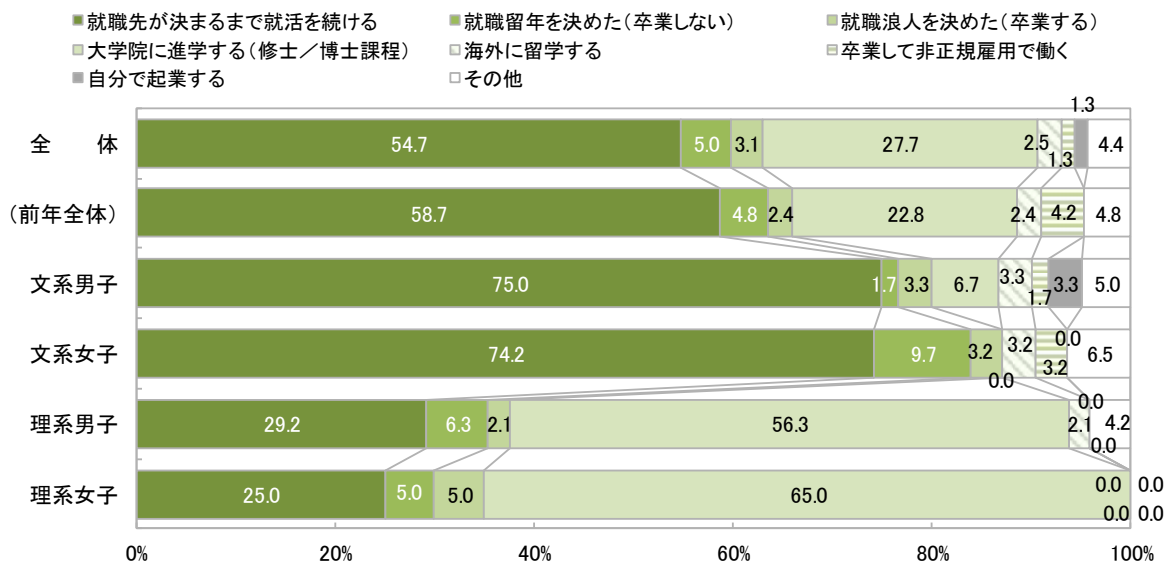
<活動状況の分布>



2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が半数を超えるが、前年調査より割合が下がり (58.7%→54.7%)、就職以外の進路を考えている学生が増加した。「大学院に進学する」が3割に迫り (27.7%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層に加え、コロナ禍がある程度収束してから就職したいという意見もあった。「大学院に進学する」という回答は理系学生において多く、とりわけ理系女子では6割を超える (65.0%)。一方、文系では「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が圧倒的に多く、男女とも7割を超える (文系男75.0%、文系女子74.2%)。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



※「自分で起業する」は2022年卒者から調査

■ 就職先が決まっていない学生の声

- より志望度の高いところに就職したいから、納得するまで就活を続ける。 <文系男子>
- 留年したり、就職浪人をしたりする金銭的余裕はない。 <文系男子>
- コロナの情勢がある程度安定してから就職したいと考えたため、大学院に進学する。 <理系男子>
- 研究開発職に興味を持ったので、大学院で経験や知識を得たいと考えた。 <理系女子>

### 3. 中小企業への選考応募状況

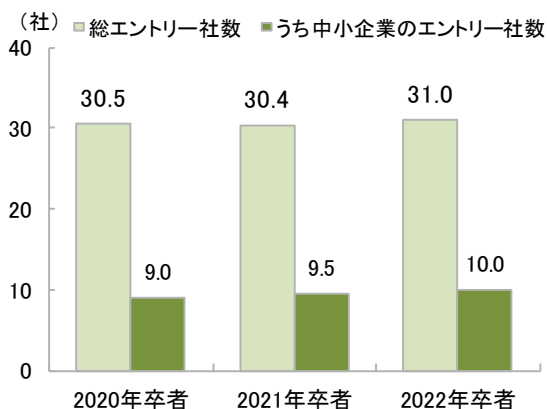
全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」が約 6 割 (63.2%)、「中小企業の面接試験を受けた」(57.4%) とともに、前年より微増した。中小企業へのエントリー社数の平均は 10.0 社。面接試験受験社数の平均 3.1 社で、いずれも増加傾向が見られる。総エントリー社数に占める中小企業の割合は約 3 割で大きな変化はないが、総エントリー社数の増加に伴い、中小企業へのエントリー社数も増加した。

中小企業を受けた理由を見ると、「会社の雰囲気がよい」(38.0%)、「やりたい仕事に就ける」(37.3%) などが上位に挙がっている。社風や仕事内容をアピールすることが学生を惹きつける鍵となっていることがうかがえる。中小企業では、セミナーや面接を対面で実施することも比較的多く、会社を直接訪問することで、社風や仕事の理解が進みやすかったことも影響していると考えられる。

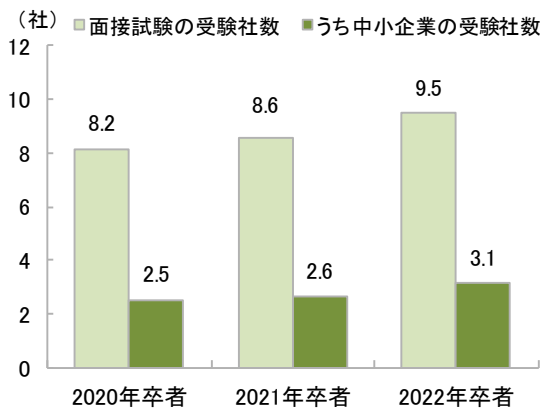
	(%)		
	2020年卒者	2021年卒者	2022年卒者
中小企業にエントリーした	62.8	62.3	63.2

	(%)		
	2020年卒者	2021年卒者	2022年卒者
中小企業の面接試験を受けた	57.3	57.0	57.4

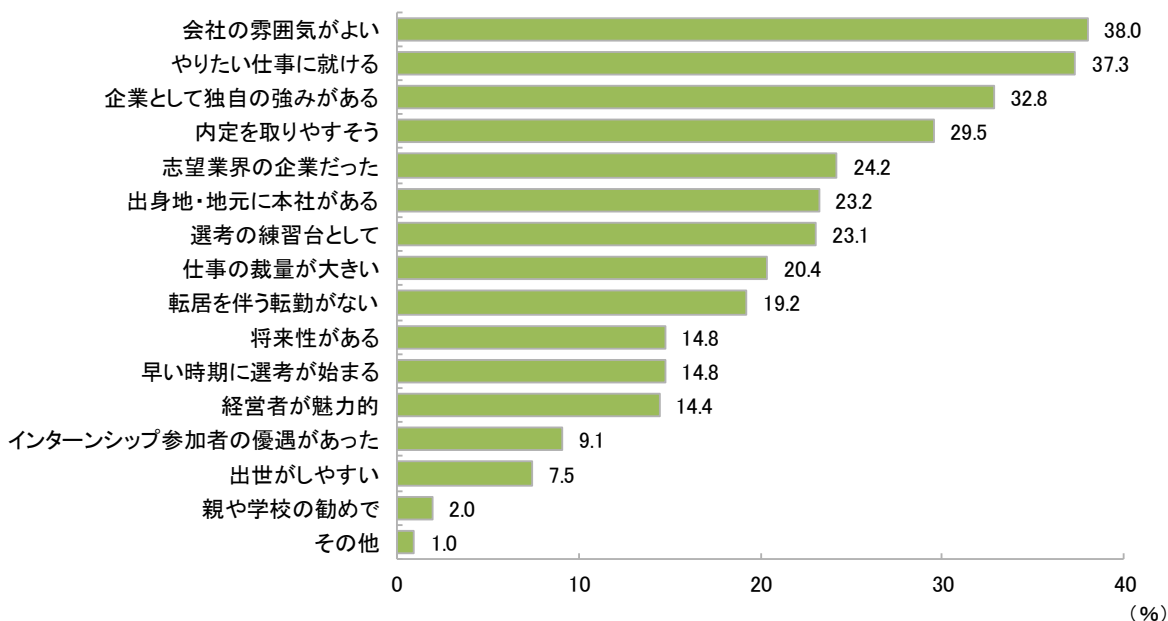
<エントリー社数>



<面接試験受験社数>



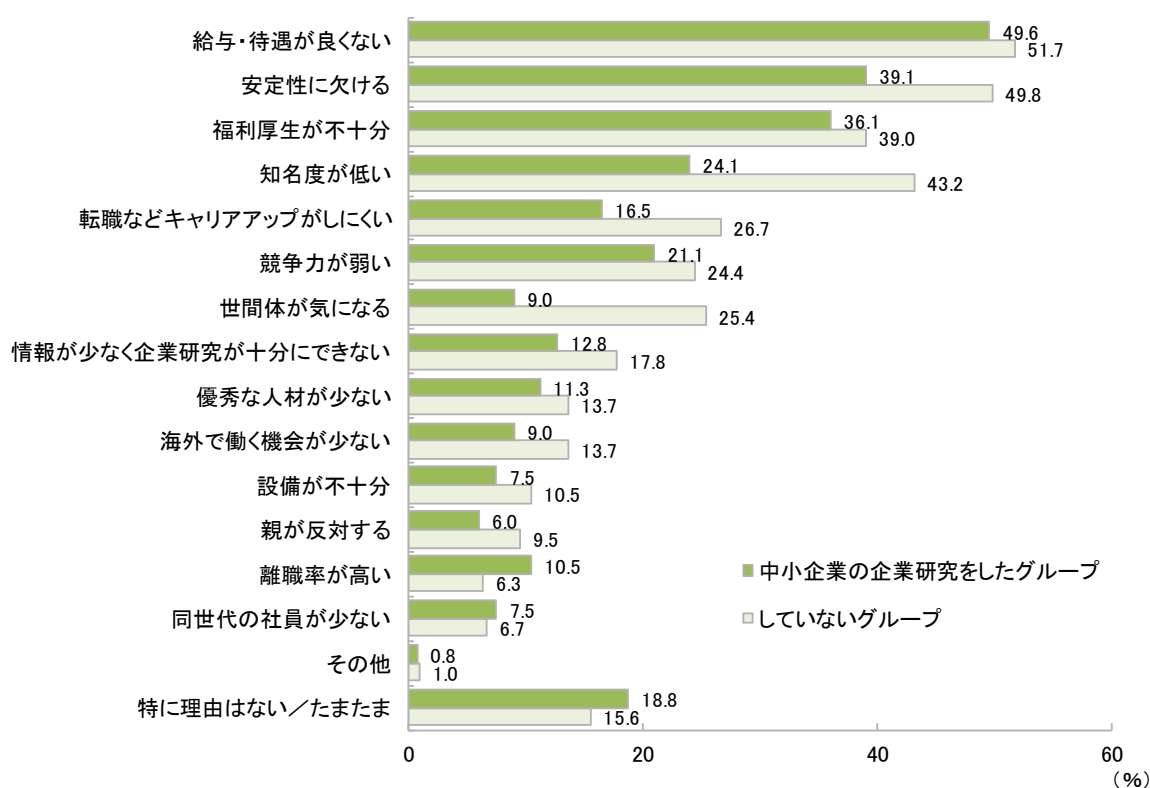
<中小企業を受けた理由>



一方、中小企業を受けていない学生 (モニター全体の36.8%) にも、その理由を尋ね、「中小企業の企業研究をしたグループ」と、「中小企業の企業研究をしていないグループ」に分けて、比較した。

いずれのグループも、最も多いのは「給与・待遇が良くない」でそれぞれ約半数が選んだ。続く「安定性に欠ける」は、両グループとも2番目だが、ポイントに差が見られる。「中小企業の企業研究をしたグループ」では約4割 (39.1%) であるのに対し、「していないグループ」では約5割 (49.8%) と10ポイント以上高く、思い込みから敬遠している学生も少なくないことがえる。両者で最も差が大きいのは「知名度が低い」で、20ポイント近く開きがある。中小企業を受けた学生からのコメントを見ても、選考時の対応は大手より高く評価するものの、それ以前に「発見しづらい」「情報が少ない」という声も多い。自社の強みや魅力をしっかり発信することが大切ということだろう。

### ＜中小企業を受けていない理由＞



### ■ 中小企業を受けた印象

- 人数が少ない分、新入社員でも仕事の裁量が大きいところは良いところだと思う。しかし、会社の制度など整っていない部分もあるので、そういった部分は適宜改善が必要だと思う。 ＜理系男子＞
- もっと宣伝をしてくれないと、そもそも気づくことができない。 ＜理系男子＞
- 中小企業の採用サイトは、綺麗なものと見づらいものと両極端。採用サイトがしっかりしていないと受ける気がなくなる。 ＜文系女子＞
- 対応やフォローが丁寧だったと思う。説明会の資料や話の内容は、大手に比べるとクオリティ面で劣ると感じた。 ＜理系男子＞
- 大企業に比べ、オンラインに弱い部分があると思った。面接の際は、自分のことを深く知ろうとしてくれる人事が多かった。 ＜文系女子＞
- 大手と比べて、名前ではなく実力で仕事をしている感じが良いと思えた。 ＜文系男子＞

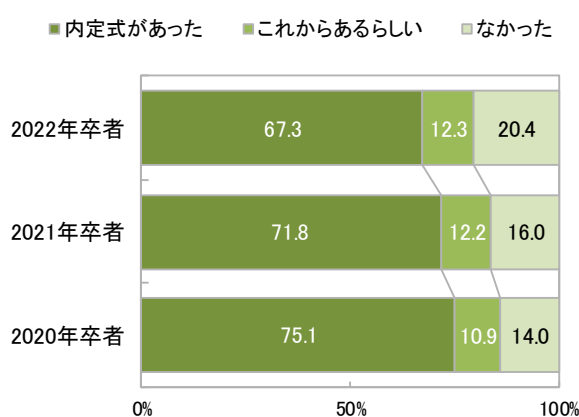
#### 4. 内定式・内定後のフォロー

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定後のフォローや研修について尋ねた。

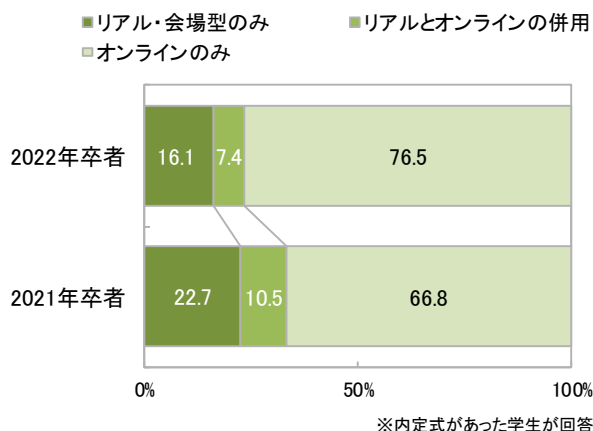
まず、10月1日前後の内定式については、「内定式があった」という学生が67.3%で、2年連続で減少した。コロナ禍で実施が難しく見送った企業もあるのだろう。内定式の形式は「オンラインのみ」が76.5%で、前年(66.8%)より約10ポイント増えた。会場型との併用を含めるとオンラインは8割を超える(計83.9%)。

内定式の実施が減少傾向にある中、その必要性を尋ね、内定式の有無別に比較してみた。内定式があった学生は「絶対に必要」「あった方がよい」を合わせて9割以上が賛意を示した(計92.1%)。一方、内定式がなかった学生においても7割近く(計67.7%)が、必要性を感じていることがわかった。

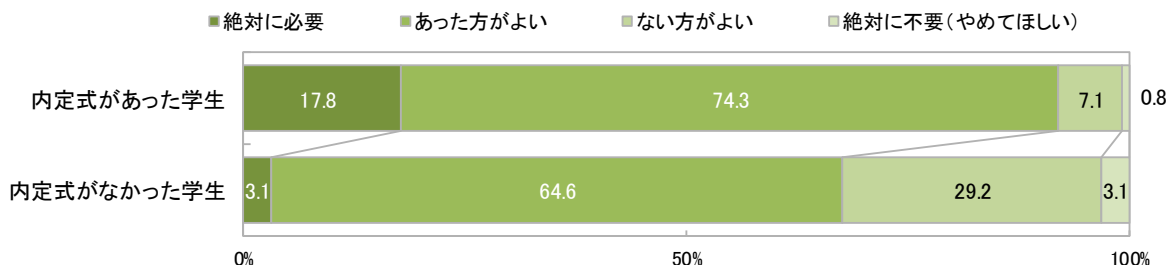
＜内定式の有無＞



＜内定式の形式＞



＜内定式の必要性＞



#### ■内定式の必要性

##### 【必要】

○コロナ禍の就職活動であったために、会社のイメージを掴みにくく、不安な面が多かった。その中で、オンライン形式でも、自分の目で雰囲気確かめる機会を設けてもらったのは非常にありがたかった。 <理系男子>

○すべての選考がオンラインやメールだったこともあり、内定式に参加するまでは、本当に内定しているのかさえ不安になることもあるから。 <文系女子>

○入社への覚悟や意識を持つことができるようになるため。 <文系男子>

##### 【不要】

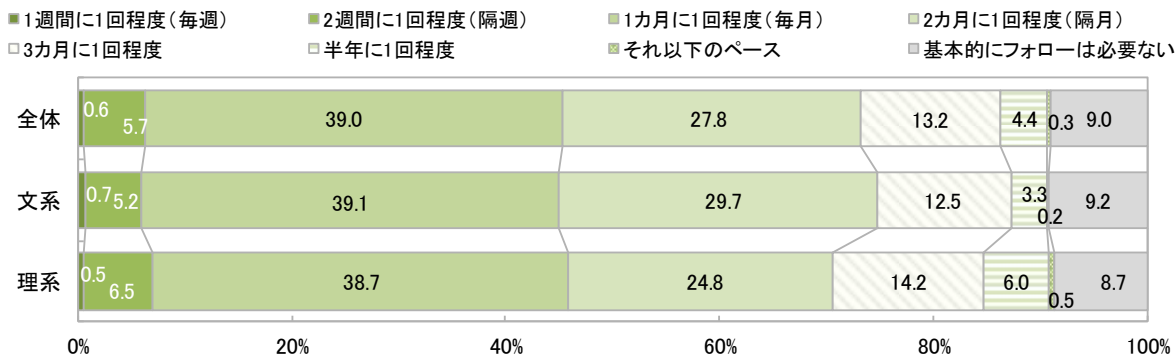
○形式的なセレモニーであり、特にオンラインでは人との交流を図ることも難しいため。 <文系男子>

○特に必要性が高いわけでもなく、平日のため、大学のミーティングを休むことになるなど、本業であるはずの学業に影響が出るから。 <文系女子>

○あってもいいが、研究活動の妨げになるので、ない方がありがたい。他の機会に内定者向けのイベントがあるので、内定式がないことによる不安は少ない。 <理系男子>

内定後のフォローについても見てみよう。企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねたところ、最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で39.0%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」(27.8%)が続く。文理での大きな差は見られず、卒業研究などで多忙と言われる理系学生も、一定のフォローを期待している様子が見える。

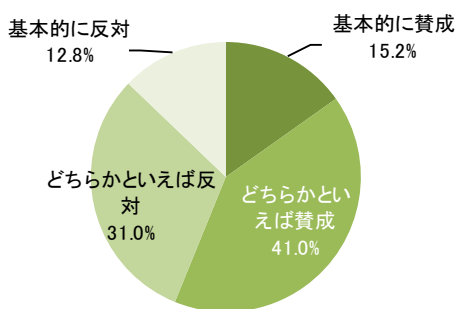
＜企業に希望する内定後フォローのペース＞



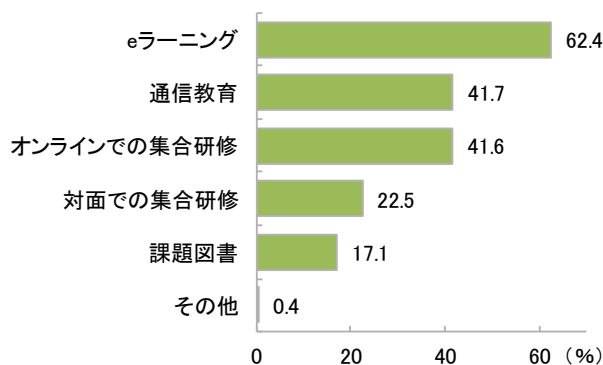
内定期間中に研修や課題が出ることについては、「基本的に賛成」(15.2%)と「どちらかといえば賛成」(41.0%)を合わせて6割弱が賛成との意向を示した(計56.2%)。なお、研修や課題の望ましい形式を尋ねたところ、「eラーニング」が最も多く、約6割(62.4%)が選んだ。「通信教育」(41.7%)、「オンラインでの集合研修」(41.6%)が約4割で続く。多くの学生が、自宅等で自分の都合に合わせて、比較的手軽に受けられる課題や研修を希望している様子が見える。

いずれにしろ、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応を心掛けたい。

＜内定中に研修や課題が出ることへの考え＞



＜内定者研修や課題で望ましい形式＞



※通信教育は紙のテキスト、CD教材など

■就職決定企業について、入社するまでにもっと知りたい情報

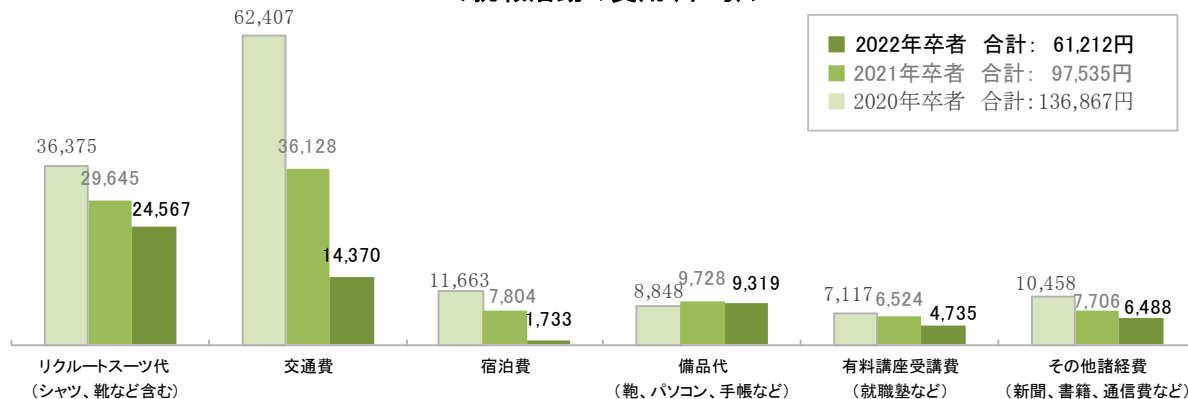
- コロナの影響で、初年度の研修の方法がよくわからないので、仕組みを知りたい。 <理系男子>
- 入社後の研修の具体的な内容や、配属に至るまでのスケジュール。 <文系男子>
- 入社後のキャリア(部署や役職)について、さらに多くのモデルを知りたい。 <文系女子>
- 給与や福利厚生など選考過程で聞けなかったことを知りたい。 <理系男子>
- テレワークは継続されるのか、頻度は変わるのか。 <文系女子>
- オンライン選考ということもあり、同期の人と交流があまりできていないのでもっと交流をしたい。 <理系男子>

## 5. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると61,212円となり、2年連続で前の年よりも大幅に減少した。昨年の21年卒では、2009年(2010年卒)に就活費用を調査し始めてから初めて10万円を切ったが(97,535円)、そこからさらに3万6千円あまり減少した(就活費用の経年推移は次ページにグラフ掲載)。

項目ごとに見ると、これまで就活費用のうち最も多くを占めてきた交通費が、この2年で6万円台から1万円台へと大きく減少し(62,407円→14,370円)、全体額を引き下げた。宿泊費も大幅に下がり、オンライン化の進行によって移動に伴う費用が一気に縮小したことがわかる。リクルートスーツ代も減少しているが、減り幅は緩やかだ。企業を訪問する機会が減ったとは言え、オンラインでの選考もスーツで臨むケースが多いからだろう。交通費が激減したことで、今や就活費用で最も多くを占める項目となった。なお、オンライン回線は、大学の遠隔授業のためにすでに整備していたことなどから、就活費用に含まなかった学生が多かったようだ。

＜就職活動の費用(平均)＞



※就職活動のために支払った費用について回答

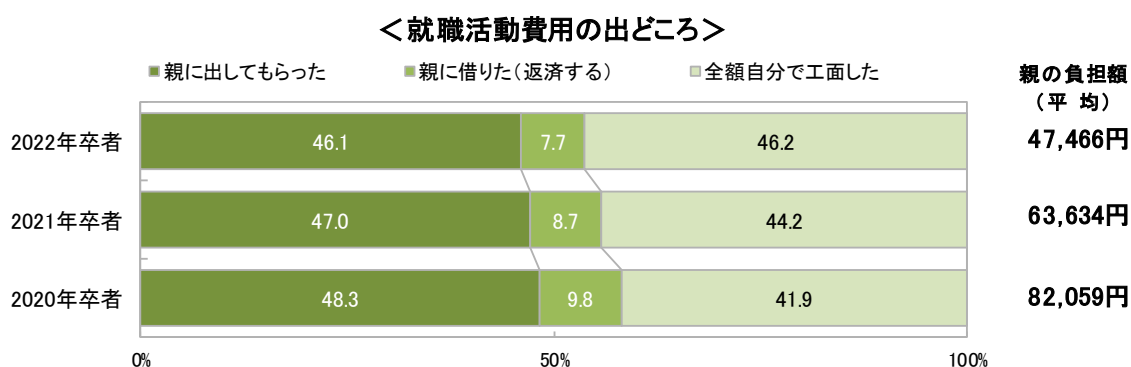
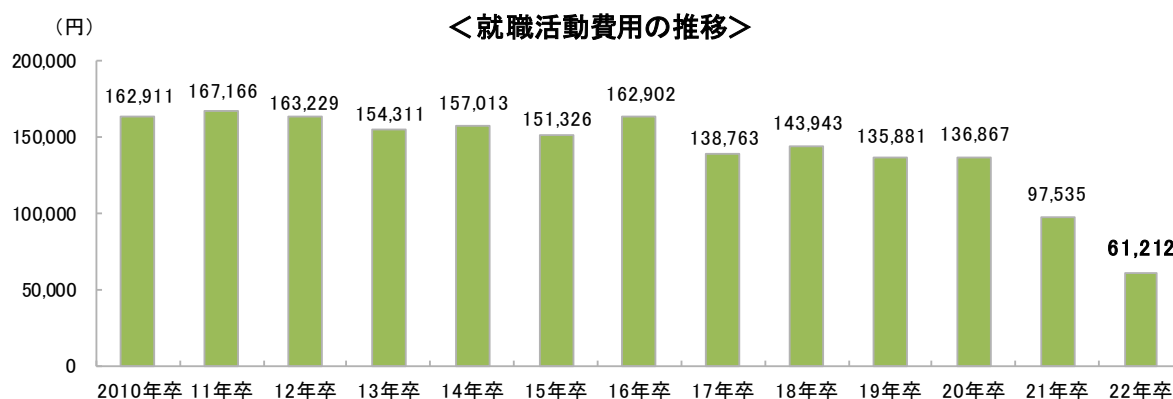
地域別に見ると、合計額が最も高いのが「中国・四国」で、86,696円と8万円を超える。続く「東北」は7万円台(75,626円)。全体の金額が最も低いのは「関東」(54,405円)で、「中国・四国」との差は3万2千円あまり。コロナ前の20年卒者では、最も多い地域と少ない地域では10万円以上の差があったが、交通費・宿泊費の占める割合が下がったことで、地域差が緩和された格好だ。

金額の減少に伴い、就活費用をアルバイトなどで「全額自分で工面した」という学生はやや増加傾向にあるが(20年卒:41.9%→22年卒:46.2%)、「親に出してもらった」が依然として半数近くに上る(46.1%)。ただ、全体額が下がったことで、親の負担する金額も徐々に減少している(グラフは次ページ)。

(円)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合計	61,100	75,626	54,405	69,668	57,617	86,696	67,938
リクルートスーツ代	18,849	22,575	22,578	27,620	28,358	29,185	22,346
交通費	17,176	16,981	10,135	20,604	13,546	25,670	18,724
宿泊費	4,110	1,889	821	2,296	942	3,815	5,372
備品代	7,543	8,295	9,419	9,620	8,787	8,671	11,923
有料講座受講費	6,486	18,220	4,510	3,479	1,383	10,622	2,577
その他諸経費	6,935	7,666	6,944	6,048	4,602	8,733	6,996





**■就職活動の費用について**

- 今年度はオンラインでの選考が主流であったため、予想以上に交通費を抑えることができてよかったです。  
 <九州沖縄・文系女子／総額 55,000 円>
- リモートでの面接や説明会が多かったため、交通費や外食費などは聞いていたほどはかからなかった。しかし、リモート面接を円滑に進めるための通信環境や設備を整えるのにはかなり費用をかけたため、交通費や外食費が浮いた分を使ったのではないかと感じています。  
 <関東・文系男子／総額 190,000 円>
- Uターン就職をしたので、交通費が多くかかった。  
 <東北・文系女子／総額 199,000 円>
- オンライン就活が主だったので、交通費が浮いて助かった。自粛期間に体型が変わったため、スーツを新調し直し、大金がかかった。  
 <関東・文系女子／総額 158,700 円>
- オンライン面接が多かったとはいえ、実地開催もあったため、従来のような費用の掛かり方はしたと感じる。  
 <中国四国・理系男子／総額 110,000 円>
- スマートフォン回線を使用していたが、面接などで電波の悪さを感じ光回線に変え、その時にお金がかかった。オンラインで就活が完結したのでお金はそれ以外かかっていない。  
 <東北・理系男子／総額 23,000 円>
- パソコンが壊れたため買い替えた。WEB 選考でなければ買い替えなかったが、就活を鑑みて買い替えた。  
 <関東・文系女子／総額 211,000 円>
- オンライン面接に備えてリング形の照明器具などを購入したが、この照明のように就活以外でも活用できるものもあったことを考えれば、無駄ではなかったと思う。  
 <北海道・文系男子／総額 17,000 円>
- 大学と並行して、就職活動のために別のスクールにも通っていたので、費用はかかりました。  
 <東北・文系女子／総額 615,000 円>
- 元々持っていたスーツやカバン、パソコンなどを利用したので、追加費用はほとんどかからなかった。  
 <関西・文系女子／総額 26,000 円>
- コロナ禍ということでかなり安く抑えられたと思うが、それでもスーツ代は高かった。しかし、入社後も使うと考えればそれほど高くもないのかと思う。  
 <北海道・理系男子／総額 75,000 円>

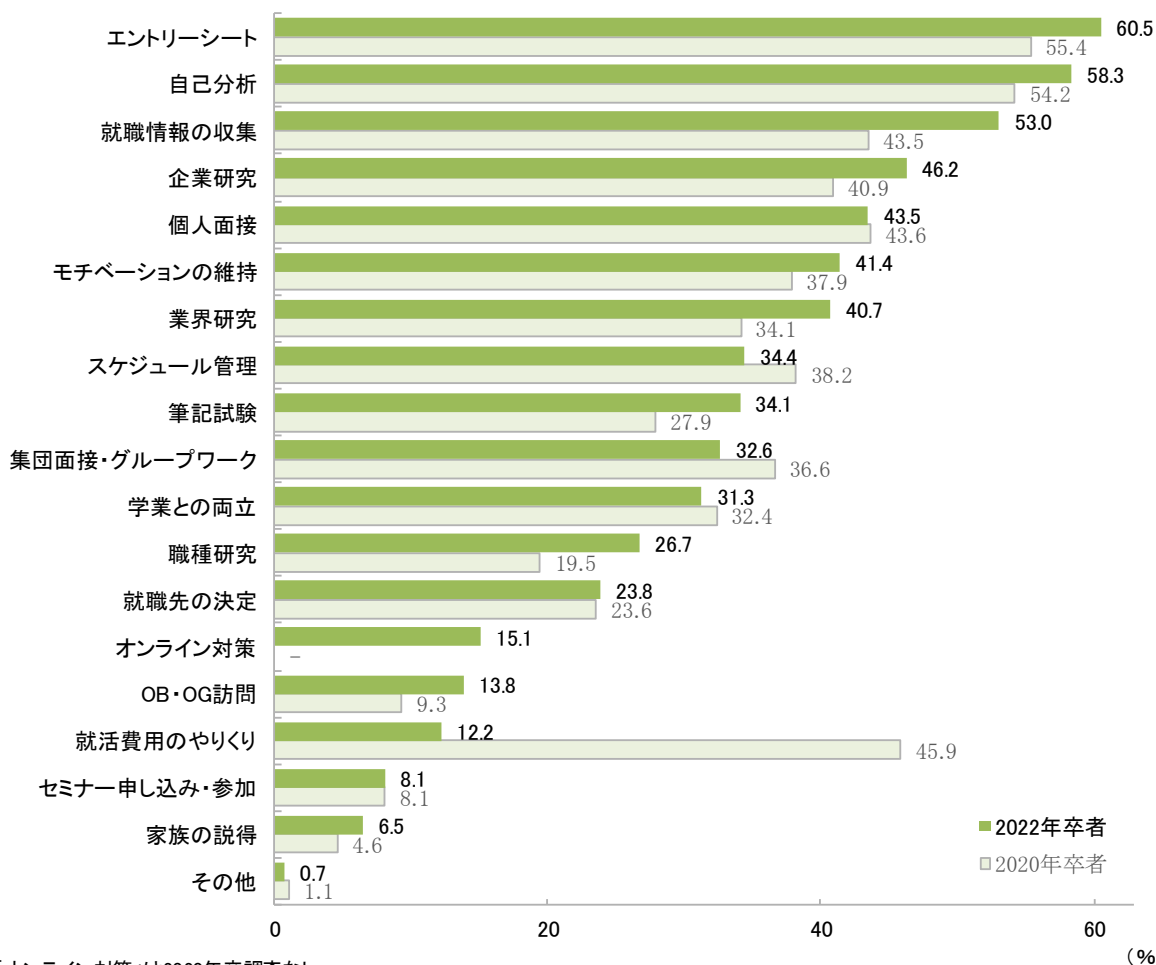
## 6. 就職活動で大変だったこと

就職活動で大変だったことをすべて選んでもらい、コロナ前の2020年卒者への調査と比較した。

1位「エントリーシート」(60.5%)、2位「自己分析」(58.3%)、3位「就職情報の収集」(53.0%)と、上位3項目は半数を超えており、かつ、それぞれ2年前よりも増加。その他に「企業研究」「業界研究」など多くの項目でポイントが増加しており、コロナ前に就職活動をした学生よりも苦勞の度合いが増しているようだ。

とりわけ「就職情報の収集」は、ここ3カ年で約10ポイント増加しており(43.5%→53.0%)、大学や就職活動等がオンライン化したことにより、情報収集が特に難しくなっている様子がうかがえる。

＜就職活動で大変だったこと＞



※「オンライン対策」は2020年卒調査なし

### ■就職活動で大変だったこと

○かなり多くの企業にエントリーシートを提出したので、締め切りが詰まっていた時期は非常に苦勞した。

＜文系男子＞

○何をやりたいかやアピール材料を見つけることに苦勞した。

＜理系女子＞

○コロナ禍で友達にも会うことができず、孤独を感じながら就職活動に取り組んだことが辛かった。友達とオンラインで会話したり、大学の就職センターを利用したりすることでモチベーションを保った。

＜文系女子＞

○オンラインでの集団面接はお互いに空気がわからず苦勞した。

＜理系男子＞

○内定をもらってからどこにすればいいのか悩んだ。企業研究や自己分析をしっかりとしていなかったことが原因だと思う。

＜文系女子＞